『第10回医学科同窓会主催学生向け講演会』に参加して

具志堅　愛　夏（５年次）

今回徳田先生の講演を聞かせていただき、沖縄県は総合内科を学び、それを実践していく上で非常に恵まれた環境にあるということを改めて感じました。

本土と海で隔てられている沖縄県で医療を完結させるためには、どんな疾患であっても幅広く見ることができ、その上で診断を下し、救急の現場では救命のための治療ができなくてはなりません。そのため沖縄県の医療において、総合内科医という守備範囲の広い医師がいることは非常に重要であると考えます。講演を通して、徳田先生のように早くから総合内科の果たす役割に気付き、その土台を築き上げていただいた先輩方の頑張りがあったからこそ、私達は身を持って総合内科の重要性を体感し、学ぶことができているのだと実感しました。

私は将来医師になるうえで、どんな患者さんであっても目の前の患者さんについて一通り把握できるようになるべきだと考えており、それが研修医に求められる第一歩だと考えています。そのために、初期研修時に総合内科に触れることは今後の医師人生にも非常に大きなインパクトを与えると思いますし、医師としての基礎を学ぶうえで重要であることは間違いないと思います。こういった意味でも、昨今の専門的で幅の狭い医療が推し進められてきた中で、総合内科の存在は大きなものとなっているのだと実感しました。

また、総合内科を経験することは、専門医では見落としがちになってしまう、続発性、２次性の疾患まで視野に入れ、幅広い医療ができることにつながるのだと思いました。総合内科で基本とされる「全身を診る」ということを心掛けることで、見えてくる疾患も数多くあると思うし、これは総合内科での経験があるからこそできる技なのだと感じます。

今回の講演を通して、改めて疾患だけを診るのではなく患者さん全体を診ることのできる医師になりたいと強く感じるようになりました。今回感じたことを今後の病院実習等で活かし、有意義な実習、そして研修医生活につなげていきたいと思います。

與那覇　梨　早（４年次）

医学科同窓会会員の先輩方、学生のみなさん、並びに保護者の皆様、こんにちは。四年次の與那覇梨早と申します。

６月11日に行われた同窓会主催の学生向け講演会に参加させていただきましたので、その時のことについて書かせていただきたいと思います。

今回は琉球大学医学科の二期生でいらっしゃる徳田安春先生が「総合診療はこんなにおもしろい」というテーマで講演をして下さいました。専門医制度の改定で、総合診療科が新設されることになり、「総合診療」が注目されている今、その第一線で活躍されている徳田先生のお話を伺うことができとても勉強になりました。

先生はご自身の体験談や、現在先生が関わっていらっしゃるプロジェクトのお話を交えて総合診療についてお話してくださいましたが、その中で印象に残ったのは、「患者さんの全身をみる」ということでした。私自身患者の家族として、専門外だからみれないという言葉に歯がゆい思いをしたことがあり、全身をみてくれる医師の必要性を感じていました。また、自分もそのような医師になりたいとぼんやり考えており、総合診療はもしかしたら自分の理想に近いのかもしれないと、将来の道を考える上でとても参考になりました。

また、自分のキャリアを決める上でロールモデルを見つけることが重要とのお話もありました。一月から始まるポリクリや、本を通して自分のロールモデルに出会えるようアンテナを張って、これから自分の進む道について考えていきたいと思います。

最後になりましたが、講演をして下さった徳田安春先生、企画をしてくださった同窓会の方々、貴重な機会を与えてくださり本当にありがとうございました。